



2020年3月15日主日連合礼拝メッセージ

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【人生の暗い真夜中を通る時】

聖書本文:マタイの福音書14章22-27節 / 暗唱聖句:マタイの福音書14章27節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

コロナウイルスの感染の影響の中で、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。願わくは、はじめてみんなが体験しているこのコロナウイルスの中にあっても、どうか聖霊の神様がお一人お一人の霊肉と共に強め守らせ、不安とストレスが溜まっている日々の中でキリストの平安で私たちの心に満たして下さいように切にお祈り申し上げます！願わくは、今週一週間のうちにも、共におられる主がみなさんの御家庭と職場の上に豊かな哀れみと恵みで覆って下さいますように切にお祈り致します。今思わぬ痛み、苦しみの時であっても、今しばらくみなさんが願っていた通り環境やものがうまく行かなくても、今までのすべての自由さ、健康、わが家庭と家族、教会と教会の信仰の家族の祈りとささえ、仕事や働きなど、すべてが決して自分の力でもなく、当たり前なことでもなかったことを覚えましょう。すべてがただただ神の許された人生の中、奇跡的な恵みと御守りの中のものであることを改めて覚え、こんな大変な時期の中でこそ、小さな感謝を見出し、表し、分かち合っていくみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！今年年明けてから、我らはみんなずっと幸いな一年として送れるように願ったら、思わぬ予想(よそう)もしなかったコロナというものが起こり、個人的には耐えがたく胸が裂かれるような苦しみが襲って来る時もあるでしょう。今日の聖書本文のマタイの福音書14章22-27節には、気まぐれな天気のような人生を断片(だんぺん)的に表しているような場面が出ています。

<本文>

今日の聖書本文を見ると、イエス様の弟子たちは今湖の舟の中で激しい風浪(ふうろう)にもられ、生死(せいし)の岐路に立てられています。まったくこれからのすぐ先が見えず、見当がつかない恐怖と不安の中に置かれています。

ところが、彼らがこんな苦しみを目の前にする直前に、どんな出来事がありましたか。そうです。あの有名な五つのパンと魚二匹で男だけで5千人、女と子どもたち合わせて約2万人ほどの群衆が食べられても、12のかごが残されるほど、一生忘れられない神の御子として、イエス様の素晴らしい奇跡を直接体験したばかりの時でした！

弟子たちは、そんなに驚くばかりの素晴らしい神の奇跡の直接体験をしたばかりなのに、今は急に環境が全く変わって生死の岐路に立っていて死にそうになっています。こんなジェットコースターのような人生ってあるでしょうか。しかし、振り返って見ると、我らの人生も実はそのようだったのではありませんか。ですから、今までものごとが順調である方がいれば、自慢しないで下さい。いつか嵐がやって来るか、いつ嵐が吹いてくるかわからないからでしょう。反対に、いまマタイの福音書の14章の弟子たちのように苦しみの中にいらっしゃる方やおぼれそうな苦しい時を通っているような方がいるなら、決して絶望しないで下さい。いつそうしたかのようにかならず、神様の恵みによって追い風(順風;じゅんぷう)に乗せられ、ずっと目指す方向に進んで生ける素晴らしい神様の助けをかならず頂ける日が来るからです。そういうわけで旧約の伝道者の書にはこのような箇所があります。

「順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ。これもあれも神のなさること。それは後の事を人にわからせないためである。(伝道者の書7:14)」

順境の日には神様に感謝し、苦しみの時はどうしてこんなことが起きたのか自分を顧みながら、これを通して神様が自分に何を望まれ、教えようとしてされているのかを真剣に考えなければなりません。神様はこの二つを平行(へいこう)させてくださることにより人が人生の先をわかることができないようにされ、常に謙遜に神を信じ、頼れるようにと伝道者の書は教えて下さっています。もう一度本文に戻りましょう。

<1.思わぬ荒波に悩まされた原因>

今弟子たちは彼らが考えもしなかった緊急事態、非常事態におわれています。今日の本文をもっと深く理解するために、まず、この出来事の原因提供者はだれなのか。を考えて見る必要があります。みなさんはイエス様の弟子たちが向かい風、思わぬ死の恐れ、激しい強風と嵐を受けて波に悩まされる状態になったのはなぜでしたか。ただの運が悪かったのでしょうか。仕方ない偶然だったことでしょうか。それとも急いでしまった弟子たちの過ちの結果でしたか、他の人たち群衆せいでしたか。聖書にはそのような状況にさせて下さったのがイエス様ご自身だと証言して下さいます。

今日の本文であるマタイの福音書14章22節を御一緒に読んでみましょう。“それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。”イエス様が弟子たちを催促(さいそく)して、舟に乗り込ませたのです！

なぜイエス様がそのようにさせたのでしょうか。イエス様の深いご意図を知るためには、船に乗らせる前にもう一度戻る必要があります！船に乗る前の時はどんな状況でしたか。弟子たちは五つのパンと二匹の魚の奇跡の現場で直接目撃したばかりの時でした。群衆たちはイエス様のこの素晴らしい奇跡を体験し、当然興奮(こうふん)状態だったはずでしょう。もうここでイエス様をイスラエルの王様とすれば、これから何を食べるべきか、何を着るか、先ほどのように、イエス様が祈れば、必要な全てのものは何でも奇跡的に与えられ、満たされるはずだと！群衆たちにとって、まるで、イエス様を自分たちの困っている全てを解決できる、ヒーローの存在としようとしたのではないのでしょうか。イエス様の奇跡を通して、群衆たちはイエス様こそ王になれる能力があるという確信を持ったかも知れません。“イエス様を王にしよう！イエス様ならきっとこのローマの支配からイスラエルを救ってくれるメシアに

間違い！”と叫んだ人も多くいたかも知れません。

かりに、イエス様が弟子たちをその奇跡の場から離れるように促さなかったならば、実は弟子たちをもその群衆の爆発的な群衆の反応に彼らも興奮し、その感激と奇跡の現場から離れたがらなかつたのではありませんか。どれほど、群衆の前で、イエス様の弟子である身分に自慢したかつたのでしょうか。今まで経験の中で多分一番、群衆たちからの手応えのある反応を味わいつつ、楽しんでいたでしょう。多くの人々からの認め、賞賛と人気、これからイエス様の弟子である身分を通して、きっと自分たちが期待しながら、描いたように、イエス様はイスラエルの王様のような存在となり、弟子である自分は、未来の出世の保証がされているかのように思い込んで、いたと思います。

イエス様が弟子たちも、後、群衆たちもその場所から離れさせ、帰らせなかつたならば、きっと夜中までパーティをしたかも知れません。イエス様の弟子たちも、群衆とともに、この興奮の場を満喫(まんきつ)していたと十分推測することが出来るでしょう。

しかし、イエス様はむしろ、弟子たちを促し、その奇跡の場をすぐ離れさせます！そして強いて舟に乗り込ませました！

ここで、弟子たちをそうさせたイエス様の深い意図が見えるのでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！**世の人々の考えでは人々からの拍手や熱狂(ねっきょう)、認めが人生の真の成功だと思われるかも知れません。ところが、イエス様の観点ではまったく違うことがわかります！！**

それは弟子たちにとって何の助けにもならず、むしろ信仰の面においては、むしろ、危険だと思われたようです。弟子たちがこの奇跡の雰囲気(きせき)に心が奪われ、夢中になるより、嵐の中で自分たちの本当の信仰を確かめつつ強められ、真の神様の力に謙遜に頼れる経験した方がもっと彼らの信仰と人生に有益だと思われたゆえ、弟子たちをそのように導いたのではありませんか。そういうわけで弟子たちは彼らが波に悩まされることを御存知ながらも、それにもかかわらず、奇跡の現場から離れさせ、舟に乗り込ませ、イエス様は彼らのために祈られたわけでありませぬ。

しかし、今日のマタイの福音書14章を黙想しながらなかなか理解できなかった二つの疑問がありました。それはなぜイエス様は弟子たちの苦しみはすぐ答えて風をやませ、波をすぐ静められなかつたのでしょうか。そして、なぜ、弟子たちはイエス様のお言葉の通りに従ったのに、苦痛と苦しみを受けなければならなかつたのか。これは我々の実際の信仰の生活の中でいつでもありうることでですから、みなさんにも関係のある質問だと思われませぬ。

<2. イエス様はなぜすぐ耐えがたい苦しみの波を落ち着かせなかつたのか。>

弟子たちはイエス様に従って舟に乗ったのに、まず、**このような状況を許されたイエス様の行動と反応について先に考えて見たい**と思います。イエス様がわざと、弟子たちを苦しみの場に導いたならば、弟子たちを早く助けてあげるべきだつたのではないのでしょうか。しかし、イエス様が苦しんでいた弟子たちに現れたのはいつだつたのでしょうか。本文の25節をもう一度見て見て下さい。

「夜中の3時ごろ」だつたと書いて書かれています。弟子たちがいつから波に追われていたのか学者たちによって意見がちょっと違いますが、ヨハネの福音書6章16節によると、「夕方になって、弟子たちは湖畔(こはん)に降りて行つた。」書いているので、おそらくイエス様の弟子たちは(マタイ14:15-夕方(午後4-5時ごろ)になつたので、パン五つと魚二匹で2万人ほどの人々を食べさせ、かごを集めさせてその後(夜7-8時)からなので、**そく船をのらせたことを考える**)その後、舟に乗って、嵐は夜9時前後から始まつたのではないかという見解(けんかい)が多いです。そしたら、弟子たちはすくなくとも、**夜中3時まで、約6時間ほど嵐に襲われていたはず**でしょう。

愛するみなさん！イエス様はどうしてもっとはやく弟子たちの方に来られ、助けて下さらず、早く来られなかつたのでしょうか。

もっと不思議なのは、イエス様はその光景をずっと見ておられたということです。マルコの福音書6章48節によると、**イエス様は弟子たちが向い風のために漕ぎあぐねているのをご覧になっておられました**。そして、**イエス様は今弟子たちが嵐と向かい強風の中**でもてあまし、力を出し切っても問題解決が出来ず、おぼれそうに、しにそうになっている弟子たちの時も、そして、実は、その光景をごらんになる前に、すでに**弟子たちが受ける苦しみに**ついてもおられたはずでせぬ。

愛する信仰の家族のみなさん！**耐えがたい苦しみの中に置かれ、倒れそうになっている弟子たちなのに、イエス様はしばらく、ただ見ておられたのが理解できる**のでしょうか。しかし、私たちの人生の中にも、まったく思わぬ苦しみの中を通る時、イエス様はまるで、傍観(ぼうかん)し、ほつたらかしされているように思われる時はなかつたのでしょうか。神様が自分の苦しみに對してまるで、ずっと沈黙されているように感じる時が時々ありませんか。仕事のために、家族のために、子供の為、進路や進学のために、結婚のために、健康のためになどなど、さまざまな悩みと苦しみの課題を持った時一生懸命に自分のすべての力を出し切つたのに、イエス様はまったく助けて下さらないように感じてしまう時はなかつたのでしょうか。今のコロナウイルスで世界の人々が苦しんでいるのに、どうして神様はそのまま、ほつたらかされているように感じている方々はいらしゃらないのでしょうか。もちろん、ある時は生きておられる神様は早速、苦しうになる時、不思議な方法で守り、助け、答えて下さる時も時々あるかも知れませぬ。しかし、多くの場合、祈っても祈ってもなぜか神様がすぐ答えて下さらないような時が結構あるでしょう。なぜか、多くの場合、神様はすぐ応答して下さらず、自分の都合や祈りに目をそらしているように、沈黙されているように感じられる時が人生の中で、みなさんにもあつたと思ひませぬし、今こそ、そのような時を通っているかも知れませぬ。なぜでしょうか。

3. 我らの為、夜中3時になるまで待つておられるイエス・キリスト

どうしてイエス様は死にそうになっている弟子たちを速く助け、救つて下さらなかつたのでしょうか。どうして夜中3時ごろになって、ようやく弟子たちに歩いて来られたのでしょうか。愛する信仰の家族のみなさん！よく考えて見て下さい。

イエス様の弟子たちの大体の仕事は何でしたか。そうです。漁師でした。前職(ぜんしょく)ガリラヤ湖が本場だつた漁師の出身だつた

た弟子たちが今舟に乗っていたので、別にイエス様がいなくても、このガリラヤ湖のところで、そこで船を乗ること、渡ることは、目をつぶっても、簡単に！らくらくに！たやすくできそうな、そんなことは朝飯(あさめし)前だ！と思っ込んでいたのではありませんか。

別に黒雲(くろくも)が空を覆って、風が吹き始めても、しばらく彼は驚くこともなかったでしょう。今までの自分たちの十分な経験があり、自信がありました。慌(あわ)てていたと思いますか。船に乗る時からもし危険だったら、漁師の出身だった弟子たちは初めから乗らなかつたと思います。おそらく、弟子たちは以前漁師だった時に、徹夜しながらも漕ぎ出し魚を取ったり、釣ったことがあるので、別に夜船を乗るのも、ちょっと雨雲があっても、似てる時間帯で、危険な経験さえも、何度もしたこともあって、どうすればいいのか、ノーハウも対応の方法も分かっていたと思います。‘今のぐらいなら、問題ないじゃん！イエス様がいなくても、大丈夫だって！おれも任せよう’自分たちの経験、力、知識、実力で、達人(たつじん)のような余裕を持っていたと思われまふ。それに、さらに、先ほどの奇跡の主人公イエス様の自分たちは、弟子たちの身分だから！という興奮状態と自信満々な気持ちもあつたかも知れまふん。

ところが、夜9時が過ぎると、だんだん向かい風も急激に強くなり、波が激しくなり始めまふ。湖を渡ることは、自分たちにとって朝飯(あさめし)前だ！と余裕持って、油断していた弟子たちが少しはびっくりしても、心配しながらでも、まだしばらくは、自分たちの経験を全部生かして、こんな時は帆(ほ)をあちの方向にすれば良いとか、いやこちの方に曲げるべきとか議論しながらでも我慢しつつ進んでいたかも知れまふん。

愛する信仰の家族のみなさん！もし、この時、イエス様が弟子たちに来られて、以前、イエス様がなされたように“波よ！静まれ(マルコ4:39節)”と命じて突風(とつふう)や荒波を静まさせて下さつたならば、弟子たちの反応はどうだつたと思いますか。おそらく“あ～イエス様、このぐらいはおれたちで、全然解決できたのに、余計なことをなさいましたね！俺たちの実力を信頼しないですか。僕らに任せてくださいよ！”という反応を見せたかも知れまふん。ところが、時間が経てば経つほど、むかい風が強くなって来まふ。もう舟の舵(かじ)も聞きまふん。弟子たちは先がまったく見えない真つ暗の中、夜中3時になると、もうこれ以上自分たちの経験も、技術も、方法も聞かない深刻な状態になります！しかし、夜中3時ごろになると、今まで経験したことのない強力な荒波と突風の勢いで船がひっくり返ってしまいそうで沈みそうになると、両手上げになりました！自分たちの力ではどうしようもできず、“もう駄目だと、これで死ぬのか。ここで終わりなのか。”

そうなつた時、弟子たちの反応はどうなつたとみなさん思ひまふか。

ようやく、この船にイエス様が一緒にいらつしやらないことに気づいたのではありまふんか。それを気づいた時、さらに、真つ暗の状況や嵐、小さなこの小舟がひっくり返そうな揺れを感じながら、死の恐怖に襲われた時、彼らの最後の反応はどうだつたと思ひまふか。“どうか、イエス様！！ぜひぜひお願いします。我らを助けて下さい！どうか、どうか、我らを救ってください！我らを守つて下さい！”と自分たちの信仰というものがどれほど、弱いものであつたかの知り、認めつつ、心から本気で、真剣に、命をかけて、全てを尽くして、イエス様を信じ頼り求めることになつたのではありまふんか。

<真夜中の3時＝自分の弱さ、罪深さ、限界を認めつつ、神様を絶対信じ、神の救い、御助け、解決も求めるその時間>

愛する信仰の家族のみなさん！きつとその時が、そのタイミングが夜中の3時ごろだつたのではないかと思ひまふ。今日の御言葉はただの時間的な真夜中の3時を言っているのではありまふん。神様の時間で霊的な深い夜中3時というタイミングにもなるでしょう。その霊的な真夜中の3時というのはいつでしょうか。我々の人生においても、いつ、どんな時が夜中の3時ごろでしょうか。自身の努力、自分のノウハウ、経験、知識など、自分のすべての力でも、出来ず、人の力でどうしようもできない両手あげのその時！それで、人の限界、弱さ、みじめさをようやく神の御前で、正直に認めながら、心から主イエスキリストのみに救いがあることを絶対信じ、へり下さつて、心から神に頼りて、神の御助けを、御救いを、回復の力を求める時になつたその時が、夜中の3時だと信じまふ。

イエス様が丘の上で嵐に襲われている弟子たちを3時になるまで、眺めておられた理由は、彼らをただ困らせるためではありまふんでした。イエス様は弟子たちのために、わざわざこの夜中3時まで待つておられたわけです！奇跡の場での興奮している状態が本当の信仰の姿ではなく、嵐の真ん中で、自分たちの本当の信仰の状態を知り謙遜に認め、周りが耐えがたい恐れと不安の中にあつても、空間的に、今イエス様が見えず、一緒に船に乗っていないけれども、かかわらず、絶対信仰を持って、キリストに便り、神の救いと助けを、御力を信じる本物の信仰をちゃんと握らせるための主の目的があつたことが分かります！

‘まだ自信満々な自分たちの力で一度頑張つて出し切つてみなさい。自分たちの経験、知識、持っているすべてを全部使つて、みろ。口では、表では私を信じるとよく言いながら、どれほど自分たちの力によって生きようとするあなたたちなのか。まだ謙遜にならず、わたしを絶対信じ切つてないの、自分たちの信仰がどのぐらいであるか試してみろ。’

弟子たちがようやく、“神様、もうこれ以上はできません。お手上げです。イエス様、あなたを絶対信じまふ、頼りまふ！どうかぜひわたしを助け、救ってください！”その時間が“夜中3時ごろ”だつたわけでありまふ。

その真夜中3時ごろになつて、イエス様が弟子たちに現れまふ。神様は我々の心を見抜いておられるお方です。みなさんがどんな心と信仰の姿勢と状態で生きようとしているのか、どれほど、神様を絶対信じ、謙遜に心から頼りて神様の恵みを求めているのかすべてを知つておられるお方です。

今も共におられるインマヌエルのイエス様は今日も、ここに座つていらつしやるみなさんがどんな心構えで、どんな信仰の姿勢をもっているのかご存じです。同時に、今みなさんがどのような苦しみの中にいるのか、どんな心の傷と苦しみを抱いているのか。どんなに望んでいる向こうの岸へ渡れるように、必死に戦っているのかみなさんの苦しみも全て見続けておられ、すべて知つておられ

ます！人生のこのような時、霊的に夜中の3時の時は、人生の中でいつでも、よくやってくることでしょ。

4.信じて従っているうちに、受ける苦しみは、決して不幸ではなく、かえって祝福の通り道である！

弟子たちはイエス様のおっしゃるとおりに従い、ただ、舟に乗ったのに、なぜ激しい波にあったのでしょうか。舟に乗っていた弟子たちは激しい苦しみの中で、イエス様をしばらく、恨みながら、こう思った弟子もいたかも知れません‘イエス様が促してくださらなかったら、船に乗ったのに、こんな大変な目にあうことなんてどうして！船に乗らなければ良かったのじゃないか。あっさりイエス様のお話に従わなければもっと良かったのではないのか’と。実際、我々の周りにも、時々、イエスをしっかり信じて従っていたのにもかかわらず、思わぬさまざまな苦しみや試練を受けて場合があります。ちゃんとイエス様を信じて従って来たのに、物事がうまくいかず、かえってこんな大変な目にあうことなんてなんでだろう！とみなさんは思ったことは今までなかったでしょうか。

イエス様をちゃんと信じるなら、御言葉通りちゃんと従うなら、必ず、祝福されると聞いたのに、現実はそのでないことに疑ったり、神様を恨んだりしたことはなかったでしょうか。その時に、どう理解し、どう受け止めればよいのでしょうか。

今日の御言葉を通して、イエスキリストが当時弟子たちに、そして、今日の信じてる我々に教えて下さるメッセージの内容は何でしょうか。もし、ちゃんと御言葉通り、生き従いながら、もし受ける苦しみや試練の時があるなら、必ず、それは失敗ではなく、祝福につながる、祝福するためである！なぜなら、その時こそ、実際イエス様の力を体験することができるからです！

このように考えて見ましょう。五つのパンと二匹の魚の奇跡で喜んでいた12人の弟子たちの中でイエス様に“舟に乗って行きなさい。”と言われた時、全部従わず、十人の弟子たちだけ従って船に乗り、二人の弟子が従わず船を乗らなかったとしましょう。二人は、“イエス様、もう疲れていやです。私は今ここが良いので、舟には乗りたくありません。”、それで10人の弟子たちだけが舟に乗ったのに、嵐に襲われたなら、船を乗ってなかった二人の弟子たちはきっとこう思われたでしょう。‘あ、不従順して良かった。そんなに苦しみに、会わなかったから！’と。まるで、船に乗らなかつた人がもっと良かったように、幸せなように、正しく成功だったように見えるかも知れません。

確かに、イエス様のお言葉に従った10人の弟子たちはイエス様に従ったため、舟の中で激しい苦しみを受けました。そして、二人の弟子は不従順したのに、その苦しみから避けることが出来ました。しかし、みなさん！その二人の弟子たちは決定的に体験することが出来なかったことがあるでしょう。それは自然さえも静まれる創造主なる神の御子イエスキリストの御力でした。十人の弟子たちは従ったため、しばらく苦しみも受けましたが、だったからこそ、荒波をも静ませ、自分たちを救い、守って下さる神の御子イエスキリストの御力を直接体験することができたのではありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！もしも、従わなかったこの二人の弟子たちは、自分たちがもっと祝福されているように見えたかも知れません。例え、聖書通りに主日礼拝を守らず、ちゃんと聖書の御言葉通り、十分の一献金や献金生活をせず(マラキ書3章8-10)、自分勝手に、自分の好き勝手に信仰の生活をしている人々がもっと金の余裕が出来、祝福されているように、もっと楽に生きているように見えませんか。むしろ、イエス様のお言葉通りに従ってちゃんと信じて、聖書の御言葉通り、ちゃんと信仰生活をしている人々がもっと、経済的に苦しく見える、肉体的に大変そうに見える場合があるかも知れません。

しかし、クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々が覚えるべきことはあまり従わないで、自分勝手に信仰の生活をされる方々は、楽に教会には通っているように見えるかも知れませんが、一つ決して、実際に体験できない大切なことがあります！御言葉通りに約束され、なされる生きておられる神様の御力を実際体験することはできません。

結局、イエスキリストの御言葉通り従わない人がいるなら、いくらイエス様の弟子であっても、いくら教会には通っていても神様のまことの御力を実際体験することができなかつたため、突然の人生の耐えがたい嵐の前では一体どうすれば良いのかわからず、恐れて、不安で結局、すべてをあきらめてしまおうとすることになるのではありませんか。

今日、いくら長年教会に通っても、自分よりイエスキリストを絶対信じられず、頼りきれず、自分の力で、生きたいままで歩もうとしている方々はいませんか。御言葉通りにいつも徹底的に従おうとしないので、自分が正しいと思い込みのままで生きようとする方々はいらっしゃいませんか。今のコロナウイルスの大変な嵐の中で、もう一度、キリストに、御言葉に、立ち返るべき時ではありませんか。わたくしは、今の真夜中の嵐の時に、もう一度、キリストの御前で、真剣に自分の信仰をかえりみて、新たにリセットすべき時として受け止めるべきではないかと思っております。どうしようもできない嵐の中で、偽物の信仰、自分勝手な信仰ではなく、我らクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんは、本物の信仰を持ち、本当に御言葉通りに従い、生きる者となりますように切にお祈り申し上げます！弟子たちは、心から本当にイエス様を神の御子として信じるきっかけとなりました。(33そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言った。)

ですから、みなさん、今まで、これからも神様の御言葉通りに従ううちに思わぬ、受ける苦難や、苦しみを受けている人は、決して不幸でも、失敗でもなく、むしろ、かならず、生きておられる神様の御力だけを実際体験出来るとともに、共におられるイエスキリストの深い慰めを受けことができますから、必ず神の祝福の通り道であることを忘れず、今日の御言葉の約束で信じて下さい。

イエスキリストは今もなお、心から主に頼る者、絶対に信じて今日も神の救いを、主の御助けを求める我らに来られ、共におられます！そして、御言葉に従った為、先が見えず、人生の小舟の中、真夜中嵐の中で苦しんでいる者たちと共におられ、目的の向こうの岸へご自身が導きながら、こう語って下さる主のこの慰めの御言葉の心にしっかり受け止めましょう。

最後14章27節と一緒に読んでみましょう。“しっかりしなさい。(安心しなさい！)わたしだ。おそれることはない。” ア-メン！